

ずいそう



年老いた母を引取って

長澤 潔

長男であっても親元を離れ、遠い他県に就職し、家族を持ち、家建て働いている人は多いと思う。必ずしも長男が親を見る必要がなくなり、子供達は、自分達家族の人生を楽しみ、年老いた親は、老人ホームに行くのが多くなっている。三世代、四世代の大家族で育った私達夫婦は、寂しい時代になったと感じている。子供達からも、お母さんは面倒見るが、お父さんは老人ホームに入れるよと、寂しい話が聞こえて来る。去年、私の田舎（静岡県清水市）から年老いた母を引取ったので、母と上手く生活できるか、奮闘している状況を述べたい。

私の両親は、父が60歳、母が55歳の頃、老後の趣味として、父は絵を描くこと、母は俳句を作ることを始めた。通信教育の絵画スクールに通い始めたのにはびっくりした。朝明けの青い富士、夕焼けの赤い富士を描くことが好きだった。母も俳句に熱中し、私達夫婦、妹達夫婦までも入会させ、自分一人で全員の俳句を作り、投稿した。

子供達が小さい頃は、長い休みに入る度に、清水の「おじいちゃん、おばあちゃん」の家に連れていった。この時期は、清水に残した両親の心配の必要は無く、私は仕事、妻は育児に没頭できた。両親には、無理しないで仕事をし、のんびりとゆっくりして、二人で長生きしてとそれだけを願った。そのため「仕事は程々に」と言う、「退屈になってしまう」と父からよく叱られた。

父が10年程前に亡くなった時、母はまだ70歳のため、一人暮らしができた。100m先に母の実家があり、近くに親戚が多く、性格はきつくなったが心配なかった。

そんな中、去年の7月突然、意味不明な電話が母から掛かって来た。「自転車で乗って転んだため病院に行きたいが、何回電話しても通じない」とのこと。妻が代わって静岡の掛かり付けの病院に電話したらすぐに通じた。帰宅して妻からこの話を聞き、すぐ母に電話したところ、意味不明な会話ばかり。これでは大変と近くにいる叔母の様子を見に行ってもらった。すると「私が誰か分からない様子だ」とのこと。翌日、妻と車で清水に飛んで行った。会ってみると確かに様子がおかしい。病院に連れて行っただが、すぐには大きな変化は見られないこと。経過を見ることになって、これ以上一人で置いとけないと茨城に連れてきた。2ヶ月後病院で再検査してもらったら、自転車で転んだ時の打撲で、老人にはよくある事だが頭の中に血が溜まりそ

れが色々な神経を圧迫するとのこと。2週間程の入院である程度の回復が見られた。この時、妻が「母を引取って、一緒に住もう」と言ってくれたのは有り難かった。後で分かったことだが、妻が言うことには、「将来、子供達が見てくれるかどうか分からないが、子供達への教育でもある」と言う。有り難くて言葉も出なかった。

引きとって一緒に住むようになったら色々な問題が起きた。一つは、母の生活する環境が変わってしまったため、責任感が無くなり何もしなくなった。うたた寝ばかりしており、ボケてきたら大変と、町の健康体操教室、俳句教室に通わせた。もう一つは、薬の量をでたらめに飲む癖。もともと一人で暮らしていたせいか、早め早めに薬を飲む。ききが悪いと量を増やす。三度の食事をしっかり食べ、日中は散歩し、規則正しい生活をし、薬に頼らないようにさせた。

茨城に来て、幾つか問題を起こしたの、「電話にでるな、家の人が留守の時はガスを使うな」の決まりができた。元気で長生きして欲しいと思い注意することでも、一人で自由気ままに暮らしてきた母にとって、面白くないこともある。10年ほど前、両膝に人工関節を入れたため、歩かないとそのうち歩行できなくなるので、毎日の散歩がかかせない。しかし、それすらも歩かされていると思っていたようだ。そんなとき、膝が痛いと言い出し、近くの病院に妻が連れて行った。骨粗しょう症の様子があるので、投薬と週1回の注射をすることとなった。全部で20本。しかし、清水に帰りたい母は（もともと病院好きな母だが）せせせと通院した。そんな状況の去年の暮れ、母はある行動に出た。

風邪を引き3日間ほど寝ていたのに、妻の留守中黙って出かけてしまった。それが見つかり、母は、「電話で呼び出されたので、俳句教室の友達の家に出かけた」と言った。電話に出るな、風邪気味なので出かけるなの二つの約束を破ったため、妻は母を叱った。夜、私が帰宅した後、この話を母から聞くと、実は病院に行き、「早く元気になって帰りたいため、骨の注射を打ってきた」と言った。昼間の話が嘘とわかり、妻は、さらに怒った。

私は守れていないが、妻は子供達に嘘をつかないように育てていた。母は今まで一人で自由に生きてきたためか、人の真心と言うものへの配慮に欠けていたと思う。妻が真心を持って母に接してくれたのに、母はその事に気が付かなかったようだ。その事の重大さにやっと気付いてくれたが、そのとき妻の心は大きく傷ついてしまった。その心を回復させるため私達は家族で取組んでいる（と言っても、母に嘘をついてはいけないと約束させた事だけだが……）。

私達夫婦が母と暮らし始めてまだ半年。家族仲良く暮らしたいと思っても、なかなか上手く行かない。早く子供達に上手く行っているところを見せたいが、次から次へと母は事件を起こす。母も私達の気持ちを分かっていると思うが、自由気ままに生きていた性格はすぐに直らない。子の私でさえ、母の性格が捻じ曲がっているのではないかと思うときもある。毎日母の面倒を見てくれるのは妻であり、妻に頭の下がる思いである。そして又母の強情さに驚いている毎日でもある。

以上、私事ではあるが、高齢化社会の実情を紹介してみた。同様の悩みに直面している方々のご参考になれば幸いである。